

霊操への導入 原理と基礎

1. 人間を、ご自分のもとに引き寄せるように働く神

「神は、無限に完全、他によることのない至福そのものであって、ただいつくしみによる計画から、ご自分の至福ないのちに必ずからせる人間を自由に創造されました。したがって、いつ、どこでも、人間に親身に心を配り、呼びかけ、人間が全力を尽くしてご自分を求め、知り、愛することができるよう助けておられます。」(CCE1) *1

- 📖 「わたしたちにとっては、唯一の神、父である神がおられ、万物はこの神から出、わたしたちはこの神へ帰って行くのです。また、唯一の主、イエス・キリストがおられ、万物はこの主によって存在し、わたしたちもこの主によって存在しているのです。」 1 コリ 8,6
- 📖 「永遠の命とは、唯一のまことの神であられるあなたと、あなたのお遣わしになったイエス・キリストを知ることです。」 ヨハ 17,3
- 📖 「神は、すべての人々が救われて真理を知るようになることを望んでおられます。」 1 テモ 2,4
- 📖 「わたしをお遣わしになった父が引き寄せてくださらなければ、だれもわたしのもとへ来ることはできない。」 ヨハ 6,44
- 📖 「わたしは地上から上げられるとき、すべての人を自分のもとへ引き寄せよう。」 ヨハ 12,32

2. 人間の望みと神へのあこがれ

「神へのあこがれは人間の心に刻まれています。人間は神によって、神に向けて造られているからです。神はたえず人間を自分に引き寄せておられます。人間は、ただ神のうちにだけ、求めてやまない真理と幸福を見出します。」(カテキズム 27)

- 📖 「神よ、あなたはわたしの神。わたしはあなたを捜し求め／わたしの魂はあなたを渴き求めます。あなたを待って、わたしのからだは／乾ききった大地のように衰え／水のない地のように渴き果てています。」 詩 63:2
- 📖 「潤れた谷に鹿が水を求めるように／神よ、わたしの魂はあなたを求める。」 詩 42:2

3. 多くの人は神に向かって生きていない(神の望みに応えない、創造主である神に与えられた自分の心の真の望みに従わない) 原因

- ◆ 自分を知らない(自分の本当の望み(必要性)ではなく、偽りの望み(必要性)に動かされている)
- ◆ 神を知らない(無関心であるか、神を怖がっている)
- ◆ 今の生き方への執着(自分や神や現実を知らずに、作り上げた幻想の中に生き、自分の気持ちを管理し、自分を守ろう(自己防衛)としています)
- ◆ 生き方の変化(回心、メタノイア)に伴う苦しみを恐れている
- ◆ 自立を失うことを恐れている(自分の望みと神の望みが異なる場合の苦しみ)
- ◆ キリストの力に頼らない(自分の力や能力を寄りにしながら、それを疑っている、「イエスに最後まで忠実に従う力のために、十分な力があるのか」)

4. 霊操は以上の妨げを乗り越えることを目指す

原理と基礎

目的：

- ◆ 自分の人生の中で神の働きと現存のしるしを見出すこと
- ◆ 今までの自分の人生において神の愛と完全な交わりへの招きを見出し、それを実感すること
- ◆ 自分の本当の望みを認識すること（神の招きに心から応えたいかどうか）

第1週間 罪

目的：

- ◆ 自分の現実をありのままに知ること（神との関係は現実に基づく時だけ、発達し、その目的に達します）
- ◆ 神との関係を深めることができない理由などを認識すること
- ◆ 神の無条件の愛を知ること

第2週間 イエス・キリスト

目的：

- ◆ キリストを内面的に知る（キリストへの愛を深める）こと
- ◆ 個人的な召命（自分の本質、人生の意義と目標）を知ること

第3週間 イエスの受難

目的：

- ◆ キリストの受難にあずかることによって、キリストとの関係を一層深めること
- ◆ 愛の力を知ること

第4週間 イエスの復活

目的：

- ◆ キリストの栄光（勝利）にあずかることによって、キリストとの関係を一層深めること
- ◆ 神は力強く、誠実な方であることを実感すること

愛に達するための祈り

目的：

- ◆ 自分の心は、神に対する一層大きな愛で燃えるように、神を体験すること
- ◆ 全てのものにおいて神を見、神において全てのものを見るようになること